

箕面。 五月。

43. *Pseudocalamobius japonicus* BATES ドウボソカミキリ

伊吹山。 六月。

44. *Eutetrapha ocelata* BATES ヤツメカミキリ

箕面、吉野。 六七月。

45. *Phytoecia rufiventris* GAUTIER キクスヒカミキリ

箕面、長野、京都、山科。 四五月。

46. *Oberea marginella* BATES ヘリグロリンゴカミキリ

箕面、伊吹山。 六七月。

47. *Oberea japonica* THUNBERG リンゴカミキリ

大阪、箕面、京都、伊吹山。 六七月。

48. *Chreonomia fortunei* THOMSON ルリカミキリ

大阪、京都。 六月。

イヘヒメアリ *Monomorium pharaonis*

LINNAEUS 大阪に發見さる

この蟻は Cosmopolitan で日本領土では臺灣、琉球に知られて居り、人家の中には住み食物に寄り付いて煩い事で有名である、が幸にも内地では今日まで知られて居なかつた、之れは事實居なかつたのか、其れとも居る事が氣付かれずに居たのか、どちらか判らないが兎も角報告された記録がなかつた、唯私は「昆蟲」二卷四號に——恐らく内地の商港都市には輸入されて居る所があるだらう例へさうでなくとも將來入り得る可能性はある——と述べ、且つ因幡丸（臺灣航路）内に居る事を報告して置いた。

所が昭和五年七月私は此蟻を大阪市北部の二つの大きな百貨店の食料品賣場其他に發見して、多少豫期して居たとは云く可成り驚かされた、それで關西昆蟲學會七月例會の席上この蟻の標本を提示して出席の諸君に注意をお願ひして

置いた所、八月下旬、田中龍三氏から、大阪市中之島の某食堂のテーブルの上でこの蟻の職蟻一疋を發見して惠與された、この様子では或は大阪市内には最早可成り擴つて居りはしないかとも考へられる。

將來の蕃殖に對する豫測は困難であるが英本國を例にとつて見ると、最初の記録は今から百年程以前で、Do isthorpeによると 1828 London に於ける發見が主も古いものであるが今日では殆んど全國に擴つて居り北は Aberdeenshire に及ぶ。然し、廣く擴つては居るが左程烈しい蕃殖をやつて居る所はない様である、して見れば日本内地に入つても大して恐れる事はないかも知れないが、蟻が食料品の上を這ひ廻つて居る等は、例ひ其れが僅かにせよ、決して氣持のよいものではない。

尙困る事は一度この蟻が輸入されると驅除が極めて困難な事である、内地の在來の蟻では例令其れが屋内に侵入する事があつても其の巣は家屋外に在るもので、家屋の中へ巣を造る様なものは居ない、そして侵入の原因は家屋内の不潔に依る事が多いから、家屋への侵入口の附近で他に食物を與へて之れに誘引し、同時に屋内の不潔を除けば容易に侵入を忘れさす事が出事る、又其の巣を發掘して倒す事も不可能ではない。

所がこのイヘヒメアリでは營巣の場所が家屋の床、壁或は天井等であるがため巣の所在をつきとめる事が困難で、之れを除く事は更らにむつかしい、或は毒瓦斯の燐蒸が用ひられてるかも知れないが其れも洋風建築の場合で日本家屋では先ず不可能であらう。

内地の在來の種で關西地方で夏しばしば人家に侵入する事のあるものにヒメアリ *Monomorium nippone* WHEELER と云ふのが居るが、之れとイヘヒメアリとは多少類似した所があるから次に之等二つの顯著な區別點を擧げて見る。

	イヘヒメアリ(職)	ヒメアリ(職)
體長	2.0-2.4mm	1.8 mm
色	橙黃色、腹部の中央から末端にかけ褐色を帶ぶ	淡黃色、腹部は黒色
皮膚	全體に顯著な點刻を密に裝ふ	殆んど平滑にして光澤強し